

【事例 H29-68】鳥取県

いのちとこころのプロジェクト事業

【概要】子どものこころに着目したところとからだのアンケート調査を小学6年生を対象に2007年度より継続実施し、子どもの実態を継続的に把握することで、子どもを取り巻く関係者と共有し、自死予防に向けた意見交換をこころの応援団を広げる会の中で重ねてきた。その一つとして、子どもも大人も気軽に集え、自分の気持ちを話せる機能をもつ場が地域の中に必要との方針がまとまり、2018年度より、この機能を総称した「ひみつきち」を各地区に展開している。現在7小学校区中3校区で活動している。今後も「ひみつきち」の主旨をこころの出前講座などで地域に広め、理解者を増やす取り組みをすすめる。

【大綱の分類】

2. 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
5. 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する
7. 社会全体の自殺リスクを低下させる
11. 子ども・若者の自殺対策を更に推進する

【政策パッケージ分類】

- 基本1. 地域におけるネットワークの強化
 基本2-2) 一般住民を対象とする研修
 基本3-1) リーフレット、啓発グッズ等の作成と活用
 基本4-1) 居場所づくり活動
 重点1-6) 社会全体で若者の自殺を低減させるための取り組み

【事業実施年度】2019年度事例（2012年～2019年継続）

【事業予算】 613,000円（2018年度）

【利 点】

- ▼保健分野、教育分野が共同し、子供を取り巻く関係機関のネットワークの構築につながる
- ▼こころがたかくなっても安心して住めるまちをキーワードに地域づくりに展開している
- ▼こころの問題をはじめ、地域づくりに関する学習の場となっている

【実施に至るまで】

プロジェクトを立ち上げた理由

- ① 2012年度自死で亡くなる人が年間10名程度。減らない現状があった。
- ② 自立支援医療の受給者数も年々増加傾向であった。
- ③ 保健師がこころの病気に関する相談を受ける機会が増えた。内容は引きこもっている、働けない、人付き合いが苦手といったもの。相談者は子どもを振り返って、不登校やいじめなどのつらい体験を相談できる人がいなかった、誰かに気付いてほしかったなどの話をされることから、子どもの頃の気持ちや経験が大人になってからの生きづらさに影響しており、自死に繋がる要因の一つと仮説。
- ④ 保健、教育、福祉分野で現状、課題の共有をし、思春期からの自死の予防対策に取り組んでいくこととした。

計画を立てる上での工夫

- ① 保健（市役所 健康推進課）、教育（市役所 教育委員会）、福祉分野（社会福祉協議会、社団法人、障がい福祉サービス事業所）で現状や課題の共有を行い、共同事業として取り組むことにした。
- ② プロジェクトの意思決定機関として、保健、教育、福祉分野で作業部会を作った。
- ③ 子どもを取り巻く関係者（教員、民生委員、保護者、幼稚園保育園職員など）を中心に、子供を支える地域になるためには何が必要かグループワークを重ねた。

具体的な内容

▼こころの応援団を広げる会

- ・子どもを取り巻く関係機関（教員、民生委員、保護者、幼稚園保育園職員）が集まり、学習、情報共有、ネットワークづくりの場として開催
- ・2015年度より年2回実施。

▼「こころとからだの健康アンケート」実施による実態把握

- ・市内7小学校、6年生を対象に実施。
- ・2012年度から毎年10月に実施している。

▼普及啓発

- ・「こころの出前講座」として地域に出向いて啓発（PTA研修会、中学校入学説明会、公民館職員対象、児童クラブ職員など）
- ・「こころとからだの健康アンケート」結果から分かる子供の現状や課題を踏まえた啓発を行うことで理解者を増やす。
- ・「こころとからだの健康アンケート」の結果を踏まえ、これからの子育てに役立つ情報として乳幼児健診の時に保護者に向けて啓発

▼地域交流推進事業「ひみつきち」

- ・誰でも気軽に集え、気持ちを話せる、聞いてくれる場の総称として、「ひみつきち」を地域の人がボランティアで実施。3地区で展開中。
- ・地区に暮らす資源となる人、場、ものを活用して、（ヒップホップが得意な大人が子どもに教えるなど）地区の特性に合った方法でそれぞれ展開している。

▼命の学習会

- ・小学校に助産師と保健師が出向き、授業を行う。内容はいのちが誕生する過程を理解し、自分のいのち、他人のいのちを尊重することの大切さを学ぶ。
- ・市内7つの小学校 5、6年生を対象

【成果】

- ▼こころの応援団を広げる会では、毎回約50名の参加がある。参加組織も広がっている。令和元年度 年2回開催 参加人数合計84名の参加あり。
- ▼「ひみつきち」を自分達の地区で作りたいと手が上がり、継続して実施できている。令和元年度は5地区で実施。1地区では毎月1回日曜日に開催。合計参加延べ人数 567名。
- ▼「ひみつきち」を作りたいと手を上げる地域が増えている。また、協力したいという人も増え、広がっている。
令和元年度 こころの出前講座 10か所 877名
命の学習会 6小学校で開催 230名
- ▼こころとからだの健康アンケートの結果、ほめてくれる人、悩みを話せる人の項目で「近所の人や地域の人」と回答する子が増えている。
ほめてくれる人：H24～H26 18.4%→H30 21.9%
悩みを話せる人：H24～H26 3.2%→H30 4.1%
- ▼「ひみつきち」がマスコミにも取り上げられることで、取り組みへの関心が高まった。

【補足】

- ▼こころの応援団を広げる会のロゴマークを作成した。



こころの応援団をひろげる会

- ▼ こころの応援カードをタクシーや美容室に設置することで、相談窓口の周知を図る。また、タクシー利用者や美容院のお客さんの中でつらそうな人がいたら声をかけ渡してもらう。



表



裏

【課題】

- ・ひみつきちが地区に定着、発展していくためにはどうしていくか。
- ・ひみつきちの持つ気持ちを話せる、聞けるという概念を地域全体に広げるためにどうするか
- ・「こころとからだの健康アンケート」の分析をどうしていくか
- ・各機関の情報をつなぐための現状や課題をフィードバックしたり、共有する仕組みづくりの構築

【事業種別】	若年層対策事業
【準備期間】	1,095日
【人数】	30~70人
【人口規模】	33,948人(2019年11月末)
【財政規模】	17,300,000,000円
【自治体負担率】	40~50%
【事業対象】	子どもを取り巻く関係機関、子ども
【支援対象】	様々
【委託の有無】	有
【実施主体・問合せ先】	境港市福祉保健部健康推進課 TEL : (0859) 47-1041 Mail:kenko@city.sakaiminato.lg.jp

【参考資料・文献】 特になし